

令和7年度 椎葉村立松尾小学校 自己評価書

(4段階評価)

4 期待以上

3 ほぼ期待どおり

2 やや期待を下回る

1 改善を要する

■ 学校経営ビジョン

「やさしい子ども かしい子ども たくましい子ども 笑顔いっぱい松尾小」

- 1 学校生活（学習）を楽しむ・・・児童が笑顔になり、主体的・対話的で深い学びをしながら、たくましく生きていくための力を身に付けていく学校
- 2 仕事を楽しむ・・・教員が笑顔になり、切磋琢磨しながら「教師力」を向上させることができるチームとしての学校
- 3 協力を楽しんでいただく・・・学校支援体制が確立され、家庭や地域の方々が、笑顔で惜しみなく児童の健全な育成に向け、協力してくださる安心・安全な学校

■ 学校の教育目標

「心豊かでたくましく、確かな力を備えた児童の育成」

評価項目	評価指標	具体的数値目標等	方策・手立て	自己評価		結果の考察・分析及び改善策等
				指標別	総合	
子どもたちが安心して学べる環境づくり	○スクールワイド PBS の手法を取り入れた指導の充実 ・学校全体で共通した行動目標の設定 ・行動支援計画をもとに児童の実態に応じた支援の工夫	○学期に1回、児童の課題や実態に即した目標の設定 ○意図的な称賛の場の設定と日常的なフィードバックの実施	①行動目標に沿った声かけや支援とその評価のフィードバック ②子どものよさを引き出す学級経営と子どもとの良好な関係づくり ③全校朝会等での表彰の場の設定	3.6	3.6	○スクールワイド PBS の取組を通して、学校全体が一体となって指導にあたる体制が整い、教職員間での共通理解のもと、指導がしやすくなったと実感している。また、児童のあいさつや姿勢といった基本的な生活習慣にも変化が見られ、1 学期には「あいさつ」、2 学期には「立腰」に焦点を当てて取り組んだことで、子どもたちの行動に明らかな変化が表れた。  ○ほめる機会や称賛の場が増えたことで、児童と教師との関係がより良好になり、児童同士も互いを認め合う雰囲気や育まれてきた。定期的なフィードバックや、宮日新聞「若い芽」への投稿・掲載といった外部への発信も、児童の自信や意欲につながっている。今後も、改善したい行動を事前に共有しながら、児童のよさを引き出す指導を継続していきたい。
指導力の向上	○「ひなたの学び」の定着 ・『な』の充実に向けた工夫 ○へき地研究会に向けての研究の充実 ・お互いに認め合い、高め合える児童の育成	○主体的・対話的で深い学びを意識した授業実践 ○単元や本時のねらいを踏まえた「松尾っ子トーク」の実践	①「ひなたの学び」の視点にたった研究授業の計画的な実施 ②自分の思いを伝える場の設定と授業の工夫	3.4	3.2	○今年度の実践を通して、児童の意識や学びに対する姿勢に少しずつ変化が見られた。特に「松尾っ子トーク」や「松尾っ子タイム」の取組を通じて、自分の思いや考えを伝え合い、互いを認め合う姿勢が育まれてきたことは大きな成果である。へき地特有のガイド学習や指名なし討論のよさを生かした授業づくりにより、児童が安心して意見を出し合える環境が整い、建設的な話し合いが日常の中に根付きつつある。

					<p>○研究主任の計画に基づき、計画的に研究授業を実施できたことや、「ひなたの学び」の“な”（＝仲間とともに）を意識した授業づくりを行えたことも、へき地研究大会の成功につながったと感じている。一方で、授業の中で児童に委ねる場面が多くなりすぎたことから、知識を的確に教える場面と、児童が自由に考えを表現する場面とのバランスを見極める必要性も感じた。</p> <p>○今年度の成果を一過性のものとせず、継続的に取り組むことで、児童の表現力や対話をさらに高め、学びの中で自然に多様な「技」が活かされるような授業づくりを目指していきたい。</p>
	○椎葉村ユニット学習の推進 ・ICT 活用により、きめ細やかな個別指導の充実	○授業におけるICT機器の積極的活用	<p>①キュビナやロイロノートなどの学習アプリの効果的な活用</p> <p>②教師のICT活用スキルを高めるための研修の実施</p>	3	<p>3. 2</p> <p>○ユニット学習や日常の授業において、ICTを積極的に活用することで、児童の興味関心を高める効果が見られた。特に、ロイロノートを活用したアンケートの実施や給食委員会での活動など、実践的な場面での活用が効果的であった。</p> <p>○定期的にICTに関する校内研修を実施し、教職員のスキル向上を図ることができた。しかし、研修で得た知識や技術を実際の授業に十分に生かしきれていない場面も見受けられ、今後は研修内容と実践のつながりを意識した取組を進める必要がある。</p> <p>○今後はICTを単なる道具としてではなく、学びを深める手段として位置づけ、より効果的な活用方法を共有・検討しながら、授業改善につなげていきたい。</p>
保護者・地域との連携	○学校運営協議会の充実	○年間3回の学校運営協議会の計画的実施	①学校運営協議会の実施内容の工夫・改善	3. 4	<p>3. 6</p> <p>○運営協議会では、松尾小や松尾地区における課題や改善点について意見が交わされており、地域の声を直接受け取ることができる貴重な機会となっている。地域と連携しながら学校づくりを進めていくうえで、協議会での意見交換は大きな意味を持っており、教育活動の改善に積極的に反映していきたい。</p> <p>○児童数減に伴う今後の学校の在り方について保護者に意見を聞くことができた。今後これを大切な意見として捉え、学校運営協議会で継続して協議していく必要がある。</p>

	○日頃の学校の様子の見える化 ・保護者と児童のよさの共有	○月1回の学校通信、及び毎週定期的な学級通信の発行	①学級通信・学校通信を通して、児童のよさを保護者に伝達、保護者と共有	3.7	3.6	○学校通信や学級通信、ほけん便りなどを通して、児童の日々の様子や学校での活動を保護者や地域に伝える「学校の見える化」が着実に進められた。特に、学級通信では児童の成長や教師の思いをこまめに発信することができ、保護者とのつながりを深める一助となった。  ○学校通信については、計画的に発行することができ、宮日新聞「若い芽」の紹介などを通じて、地域の方々にも児童の活躍を広く知ってもらった機会となった。一方で、内容が行事紹介に偏る傾向も見られたため、今後は児童のよさやがんばりをより積極的に取り上げるような内容づくりを意識していく必要がある。  ○今後も、様々な通信やホームページを通じて、児童の姿や学校の取組を丁寧に発信し、保護者や地域とともに子どもたちの成長を支える環境づくりを進めていきたい。
ふるさとを愛する心の育成	○椎葉村学の充実	○椎葉村学も含めた地域学習の計画的な実施	①伝統文化学習、地域との交流学習の充実・改善 ・椎葉村学、大いちょう太鼓、網投げ踊り、保育所との交流、駒打ち体験、グラウンドゴルフ、大いちょう遠足、スキー遠足	3.6	3.6	○今年度は、地域や保護者の協力を得ながら、松尾ならではの体験活動や伝統文化学習、交流学習を継続的に行うことができた。特に、3・4年生による方言学習では、治敏さんの協力のもと、椎葉の言葉や文化に触れる貴重な機会となり、児童が地域への理解を深めるきっかけとなった。  ○本年度も神楽の学習を行うことができた。これからも継続して行えればと思う。
	○地域の方々が開かれた学校	○学校行事への地域の参加・協力依頼 ○地域とつながる情報発信	①地域と連携した行事の実施 ・梅ちぎり、栗拾い、地区合同運動会、持久走大会、餅つき大会 ②学校通信の地区回覧板への同封とやまびこ放送の活用	3.6		○本年度は、地域の方々とのつながりを大切にしながら、学校行事や活動への参加を呼びかけてきたが、参加が難しい場面も見られた。今後は、広報の方法やタイミングを工夫し、より多くの地域の方々に学校の取組を知ってもらえるよう努めていく必要がある。一方で、「やまびこ放送（オフトーク）」を活用した情報発信では、地域への周知が効果的に行えた場面もあり、今後の広報手段としての可能性を感じた。また、松尾地区の人々と直接ふれあう活動を通して、子どもたちのふるさとへの愛着や地域への誇りが育まれていることを実感している。